

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談

第8回 ゲスト 竹宮恵子さん●漫画家

漫画をとおして通じ合う4

長官コラム 文化庁の抜穴9

特集 世界への舞台芸術の発信

文化庁提言

舞台芸術国際フェスティバルの開催河合隼雄・10

有識者提言

アジアのポップスは今小倉エージ・12

舞台芸術国際フェスティバル

プログラム日程13

論文

アジアのオーケストラの現在と未来小倉信宏・14

施策紹介

文化庁における音楽振興策について芸術文化課・16

インタビュー

舞台芸術国際フェスティバル「ポップアジア2002」

参加ミュージシャンへのインタビュー芸術文化課・18

ことばの探検⑩

クイズ擬音語の話山口仲美・22

インタビュー 未来の扉⑩

豊竹呂勢大夫(人形浄瑠璃文楽太夫)23

いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート⑧

つくばキッズアーティストクラブ

茨城県つくば美術館26

連載

舞台の現場から 舞台を支える人たち⑩

文楽の小道具の大きさ

国立文楽劇場森永 伸・27

美術館と著作権契約(第2回)28

子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区

高山市三町(岐阜県高山市)29

日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編20

昆布尊男(漆漣紙(吉野紙)製作)30

在外研修だより 新進芸術家在外研修報告⑩

.....森永明日夏・31

平成14年秋の

叙勲、褒章受章者が決定32

第49回日本伝統工芸展34

平成14年度

文化庁舞台芸術創作奨励賞作品募集要領36

平成15年度

映画芸術振興事業の募集について38

現代日本文学の翻訳・普及事業の対象作品に

ついて(平成14年度・15年度)39

平成14年度「文化芸術創造プラン(新世紀

アーツプラン)」について(第3次採択分)40

奈良国立博物館

親と子のギャラリー 一遍聖絵41

東京国立近代美術館

企画展 松田権六42

東京国立博物館

東京国立博物館の講演会、講座シリーズ43

東京文化財研究所

公開学術講座44

新国立劇場スポットライト45

12月の国立劇場46

芸術文化振興基金ニュース47

題字デザイン 桑山弥三郎

今月の
表紙ポップアジア2002
[Voices of Asia]
2002.9.22

漫画をとおして通じ合う

撮影／島峰 譲



漫画は便利な道具

河合 日本の文化振興において、漫画もずいぶん注目されていますね。
竹宮 漫画が日本の文化といわれ始めたのが最近ですので、まだ実感がないというか、慣れていないのが正直なところです。大学で漫画を教えることも、今まで考えられなかったことで、どう教えたらいいかだけでなく、何を教えたらいのかから考えなくてはいけなくなっていくんです。

日本はとても文化的な国で、生活の道具も昔から工夫してきた歴史があるので、おもしろいものがたくさんあり、それらを見たり聞いたり、描きとめることが好きです。それを漫画の中に生かすということでしょうか。漫画は、見てもらうことで伝えることができるとても便利な道具なので、もっと社会的に使っていただきたいです。

大学教授になり、三年目ですが、大学では若い人が好きなように漫画を描くのは違う部

向にありますね。

竹宮 生徒にとって、漫画は好きなだけに勝手にやりたいとの気持ちが強いです。何とか上手に描けるように、しっかりした技術を教えたのですが、嫌にならない程度におもしろい課題を与えるのが難しいところです。

河合 先生も小学生在に授業されておられますが、私も郷里の中学校で、「総合的な学習の時間」に「四コマ漫画で環境問題を」とのテーマで授業をしたことがあります。

グループをつくり、自分たちのいいことを四コマの漫画で表現しました。私が起承転結の起の一コマ目を描いて、承転結をみんなでまとめる。話し合い、一週間くらいかけて研究して、みんなで描いたそうです。全員ちゃんと表現できていますね。

河合 それはたいへんおもしろいですね。手応えを感じましたか。

竹宮 最初に自分たちがつくったものを発表します。それを見て私が、「この部分は非常によく表現されています」というと、生徒がその感想を先生に出すのですが、それをまた私のほうに送ってきたんです。他の人が気づかないようなことを私は気づくらしく、それがおもしろいといっていました。生徒が「表現」と思わずに描いているのを、私が「よく表現されていますね」というと、へあ、そうなのか



たけみや・けいこ 漫画家・大学教授
徳島県徳島市生まれ。昭和43年『りんごの罪』で漫画家デビュー。昭和46年『空が好き!』をヒットさせ、タブームを呼ぶ。週刊・別冊少女コミックで活躍し、昭和55年『風と木の詩』『地球へ…』で、第25回小学館漫画賞受賞。その後掲載誌を広げ、多彩に活躍。他の代表作に、『ファラオの墓』『変奏曲』『イズマローン伝説』『私を月まで連れてって!』『天馬の血族』など多数。
平成12年度4月より京都精華大学芸術学部マンガ学科教授として、後進の指導に力を注いでいる。

分、漫画を使うことを教えたいと思っています。河合 最近ではパンフレット、手引ものにも、漫画が増えてきましたね。

竹宮 ページ当たりの情報量は文章のほうが多いですが、抽象的なことを言葉を使わず、広く知らしめたいときには、漫画はとても便利ですから、生徒にもよい使い方を探りつつ教えています。

河合 学生さんの取組みはどうですか。

竹宮 入学時、彼らにとって漫画はそれほど苦勞せずとも描けるものですが、テーマや期日が与えられると、それをこなすことが難しくなるようです。そういうことが漫画を描く技術だと感じ始めているようです。

河合 入学試験は漫画を描かせるのですか。

竹宮 いろいろな課題から、自分で好きなものを選んで、テーマに沿って描く試験など、実験的に行っている試してみました。

河合 入学試験で漫画以外に数学なども行ったらおもしろいのではないのでしょうか。

竹宮 数学者で漫画を描く人は結構います。河合 漫画ではないですが、『不思議の国のアリス』の作者は数学者でしたね。

竹宮 おもしろい話をつくるのは、数学を解くようなおもしろさがあるのかもしれない。

河合 数学に限らず、学校は下手するとおもしろいことでもなく、難しいことは教える傾

飽きずにできるので、質を上げるためにもグループで製作する会社のようなものができたらおもしろいのではないですか。

河合 単に絵を描くとか、発想があるとの才能の人もいろいろ、あまり両立しないのでは。竹宮 ですから、みんなで協力するのが一番いいと思うんです。

河合 竹宮さんはそれらを自分一人でやってこられたわけですね。

竹宮 昔は根性でやっていましたが、これからの漫画家は無理せず、うまく仕事を組み立てていく技術者みたいになっていくのではないかとみています。プロ漫画家になるためには、どうしても閉じこもって仕事をする資質、集中力がないとできないんです。もし、そうせずとも漫画を描ける状態ができれば、たくさん漫画が世の中に出てくると思います。

河合 竹宮さんが描き始められたころから考えると、考えられないほどの変化じゃないですか。需要もすごく増えたわけですね。

竹宮 ただ、やはり一握りの、一人でできる人がプロになりますね。漫画を描くそれなりの才能はみんな持っているの、もう少し描いている人が増えてくれたらと思います。

河合 いわゆる画家とはだいぶ違いますね。竹宮 とても技術者のなところがあります。描くことだったら好きだという若い人がいっぱい

と思うみたいです。

河合 中学生の総合的な学習としてよい試みですね。彼らは一番表現が得意な年ごろなんです。「別荘」ばかりいうでしょう。

竹宮 子どもたちに休みが増え、私のアシスタントだった人が知り合いの子ともたちに、絵を教えるようになったのですが、今の子どもたちはすごく小さくまとまっている絵を描くそうです。子どもは紙からはみ出さくらい大きく自由に絵を描くものだと思っていましたが、違っているのかもしれないですね。

河合 漫画を使う授業を組織的に研究してもいいと思います。教育実習のときにでも、うまく組織的にやられたらいいですね。

竹宮 絵を教えるのは、その人の発露を見出すことになるので、やさしいようで難しい。

漫画は生活の細かいひだ

河合 僕のところと相談にくる子どもでも漫画を描く子どもにはものすごく奨励します。それから、自分にぴったりの漫画を持ってくる子どもが多いです。極端な場合、中学生で自分の好きな漫画を持ってきて読んで、よくなる子があります。それでうまく自分を表現できているんです。

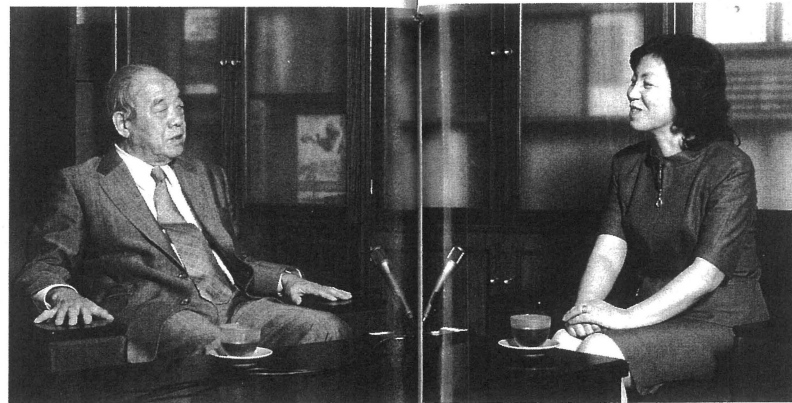
おもしろかったのは、漫画を持ってきて、読んでくれるわけです。「ふーん」と感心すると、

伝わったと思って帰っていくでしょう。ある日、漫画を持ってこないんです。「今日はどうして持っていないのか」と聞いたところ、「ちょっと先生にはキツイと思って持ってきてませんでした」と。同性愛のテーマらしいんですよ。先生には分からないうと、中学生のほうがちゃんと分かっているんです。

竹宮 若い人は若い人なりに逆に気を遣うところがありますね。漫画の世界では年齢の垣根もないので、大人と子どもでも話ができるのではないのでしょうか。漫画は生活の細かいひだの部分にあるかと思っています。漫画の話が通じることにつながることが、漫画の存在意義として一番ではないでしょうか。

河合 漫画のコンクールはあるのですか。

竹宮 高校生の漫画研究部に人気があるのは高知県で毎夏行っている「漫画甲子園」です。



いるので、そこに自分の知識を生かしていけるようになるばいのです。

MANGA

河合 日本の漫画は、どんどん外国にでているようですが、いかがですか。

竹宮 文化と認識されるようになったのは、外国からのアプローチがあつたからだと思うので、非常にありがたいです。でも、外国で興味を持たれた部分と、日本の内情がちょっと違ってきています。

現状はゲーム等と組み合わせさせて、商業的な方向に行きつつありますが、最初に外国で漫画に対して表現力として興味を持たれたのは、文化的な方々で、そこにギャップができて

高校野球の「甲子園」のように全国から高校生が集まり、与えられたテーマに沿って一日の間に会場で描くんです。漫画の分ける人がいれば、小さな町のコンクールやお祭りをしてもおもしろいでしょう。

河合 「漫画甲子園」とはすばらしい考えですね。

漫画家は技術者

河合 若い人を養成するのはたいへんですが、意欲という点ではすごいですね。

竹宮 漫画を描くのは、初めは遊びなので、そういう意味では楽しくやっています。

河合 それをどのように伸ばして、プロにしていくのですか。

竹宮 自分のオリジナルで勝負できるようになつてくれたらうれしいのですが、難しいです。社会的なことに使っていける人とか、注文を受けて漫画を描いていける人が出てきてくれれば、仕事として成り立っていくのではないかと思います。学生にも、今から学内でもいいから、会社をつくって仕事の場にしたらどうだとハッパをかけていますが、今の人はなかなかそういう勇気が持てないようです。

みんな自分一人ですべてできるのであれば、すぐにプロになれるのですが、どこか欠けているんです。協力すると楽しいし、早く、

落書きのような部分から、高尚な部分まで漫画は幅があるので、その両方を外国の方にも知ってほしいし、漫画の使い勝手という部分も広く知ってもらいたい。商業的に向いている漫画と、表現に向いている漫画とはまったく違うのです。表現として育ってきた技術を、どこかでちゃんと残しておきたいし、それを何とか形にするために、大学で教えることも引き受けました。

河合 外国それぞれで、日本の漫画に対する知名度や理解度に差がありますか。

竹宮 日本のファンと似た形のファンがいるのがイタリアです。南フランスにはそのイタリアからの電波が入ります。私はエルメスの社史を描かせていただいたのですが、エルメスの次期社長のお嫁さんは、南フランスで日本のアニメーションを見て育ったようで、漫画で社史を描くことにも抵抗はないようでした。

エルメス・ジャポンの広報の方は私が描いた社史を、新入社員や、取材にくる方に読んでもらって、非常に便利で説明の必要がない（笑）と言っておられます。

河合 そのように漫画の世界が広がるなんて、ほんとうに考えられなかったでしょう。社史を描くとなると構成を考えないといけませんし。竹宮 私の先輩方は皆さんそういうことをされ、石森章太郎先生などは株のしくみを非常

に分かりやすく描かれたので、一般の方がたくさん株の取引をするようになったと聞いています。

文化の積み重ねによる漫画

河合 漫画を描いていて、日本の文化全般、文化の振興で思いつかれることはありますか。
竹宮 絵を描くために、細かく調べていると分かることがたくさんあります。時代劇を描こうとして、刀を確かめようとすると、つい文献に書いてある刀についてのことまで読んでしまうのです。

時代劇を描くため絵巻を読みましたら、絵巻はその時代の漫画だったのではとも思いました。日本人にはおなじみの俯瞰図も、外国人にとっては驚きだそうです。時間の流れが違うことでも、上からみることで、一緒に描くことができると発見した人はすごいです。日本の長い文化が漫画を生み出したことを、今の若い人たちにも知ってもらいたい。

河合 絵巻でおもしろいものはありますか。

竹宮 原作が『枕草子』で、『枕草子絵詞』というものがあります。女の人が朝、顔を洗っための手水を持つてくるシーンなどが描かれているのですが、ポーズが非常に細かく、へこれは少女漫画なのではないかと思いました。
アニメーターの高畑勲先生は、絵巻物はア

ニメーションだと言っておられます。ほんとうに文化のいろんな根源があるという気がします。

河合 絵巻をつくって売ったら、案外おもしろいんじゃないかといったことがあるんです。

竹宮 今はコンピュータがありますから、絵巻物の複製をたくさんつくって、同じようなものを復元できたらいいですね。そういった文化的なものって、実際に手にとって触ってみたいですね。

河合 子どもときの遊びで、紙を巻いて、線をたどると、こっちは当たりとか、はずれとか、つくってましたよ。同じ感覚ですね。

竹宮 漫画は遊びの一つの発展形ですね。

河合 歴史の授業に絵巻をつくってみせている先生がいました。生徒がすごく喜ぶし、生徒にもつくれというわけです。

竹宮 歴史の複雑な成り行きを、年表で言葉で理解しろといってもつまらないですものね。紙芝居にすると楽しいのではないしょうか。

河合 さらに総合的な学習でそういうのをどんどんやるべきだと思いますね。

竹宮 絵を描くことが得意になってきたら、描くことは調べなくてはいけないことですから、いろいろなことを勉強します。

河合 漫画で歴史や、物語に親しみを持たせたことはすごくありますね。竹宮さんも歴史物を

を描かれていますね。

竹宮 『吾妻鏡』を描かせていただいたので、鎌倉幕府の内情がよく分かりましたし、身をもっているいろいろ調べました。

河合 夏休みの宿題に、非常にいいアイデアですね。子どもは一所懸命やるでしょうし。それを班でやったらいいですね。

調べる子、描く子、構成を考える子、共同でできますからね。組織的に協同してやらないといけない。それもコンクールにしたらいいですね。

竹宮 歴史のいろんな部分をみんなで描いて、競争したらおもしろいかもしれません。

河合 今は、時代考証等をいい加減に描く人はいなくなりましたね。

竹宮 本気で見せたいと思えば、きっちり調べないといけないというようになってきてますね。見るほうも目が肥えて、だんだんリアルな方向に向かっています。ただ、少しリアルな方向に偏りがあるので、小さい子どもにもっと想像力を与えるようなものもほしいんです。

せっかくここまで広がったので、特殊な人ものにならないで、みんなにとっての技術であってほしいです。

文化の再発見

河合 映画振興も話題になっていますがどう

思われますか。

竹宮 映画祭を地方でやったりするというのはすごくいいですね。そういうことをすれば、文化的に浸透していくと思います。

河合 映画作品という点では、漫画をつくるのと同じような感覚で意見ありますか。

竹宮 私たちにとって映画は競争相手だったので、漫画を描いている人は未だに研究していると思います。漫画に優るSFXというコンピュータの技術が出てきているので、漫画はどうやって対抗していったらいいのかと思う部分があります。でも、漫画は止めることができるので、二時間で終わってしまうのではなく

て、印象としてすごく残りやすいことが力になるのかなと思っています。

日本は文化的に高い国だけど、忘れているものが非常に多い。それをもっと生活の中で確かめることができるように、忘れないでこちらへも目を向けてほしい。

河合 日本人は日本のよさを知らなさ過ぎますから。外国へよく行っていると分かってくるんですけどね。

竹宮 観光でなく、経験しに出ていくのであれば、日本のよさがもっと分かると思います。

一二歳のときから、毎年のようにヨーロッパなどへツアーコンダクターも自分でやりなが

ら旅していたので、向こうの生活はやむを得ず勉強しました。すると、日本のよさがよく分かるし、文化の違いをすごく感じます。生活の部分で外国に出て、違いを覚えてきてほしいです。

河合 みんな日本文化のカプセルの中に入っで移動して、ほとんど向こうの文化に触れていないですからね。

竹宮 文化や生活に触れる旅をしてもらって、日本的な部分を外国へ行つて感じることで、日本の文化をもっと知ってほしいですね。

河合 どうもありがとうございます。(了)

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談

博物館内のコンサート

文化庁の抜穴 河合隼雄

奈良国立博物館で行われた「バロック音楽の夕べ」を聴きに行った。私は欧米に留学して、博物館や美術館内の室内楽のコンサートを聴いて、羨ましくてたまらなかった。当時、日本ではどこでもそんな試みはまったくなかった。美術品や絵画に囲まれ、音響効果の素晴らしい部屋で室内楽を聴くと、これぞまさに音楽！という感じがしたのだ。至福の時という感じがした。

こんなことを日本でもやれたらいいのにと願

っていたので、奈良博の催しには大喜びで出かけていった。仏像に囲まれ、バロック音楽を聴く。不思議なことにキリスト教国で作られた宗教的な音楽が、結構うまく調和するのだ。コレギウム・ムジクム・テレマンの演奏も心のこもった、親しみを感じさせる名演奏だった。

こんな試みが日本中に広がるといいと願っている。東京国立博物館も同様のコンサートを企画中とか、大いに期待している。是非とも多くの方に来ていただきたい。

◆長官対談◆
 「文化人の本音」河合雄雄文化庁長官対談
 安藤忠雄 建築家
 「長官コラム文化庁の抜く」

◆特集◆
**独立行政法人国立美術館・博物館の
 一年を振り返って**

「文化庁提言」
 独立行政法人の評価について
 ……湯山賢一 美術学芸課長

「論文」
 独立行政法人国立美術館の一年を振り返って
 ……独立行政法人国立美術館理事長
 独立行政法人国立博物館の一年を振り返って
 ……独立行政法人国立博物館理事長

「施設紹介」
 独立行政法人国立美術館・博物館に係
 る業務の実績に関する評価

◆連載◆

「ことばの探検」……………山口仲美 埼玉大学教授
 「インタビュー 未来の扉」
 市川実日子（女優）

「いきいきミュージアム」美術館・博物館事業レポート
 八尾市歴史民俗資料館
 ……「舞台の現場から」舞台を支える人たち」
 音響 新国立劇場

「子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区」
 東部町海野宿

「美術館と著作権契約」
 広報用の原稿を書いても大丈夫
 注意すべきこと

「日本の伝統美と技を守る人々」
 瓦屋根 鈴木真一 山本清一

「在外研修だより」
 在外研修員 森永明日夏

「文化ボランティア通信」

◆文化庁ニュース◆
 長官表彰
 地域文化功労者決定

編集後記

今月号の特集の中心である、「平成一
 四年度文化庁舞台芸術国際フェスティ
 バル（IPAF）」は、今年度文化庁が
 新たに開始した施策ですが、我が国の舞
 台芸術の発展のためには、このようなフ
 ェスティバルをとおして、我が国の舞台
 芸術を世界に発信していくことが必要と
 考えられます。
 今年度のIPAFはテーマを「音楽

も 今 アジアから」として、アジア各
 国からアーティストを招き、二三日間に
 及び公演を行いました。それぞれの公演
 において、舞台上で、観客席でアジアの
 方々との交流が見られ、喜ばしい成果を
 あげることができたと考えております。
 しかし今年度のIPAFにはいくつつか
 の問題点があったことも確かです。来年
 度以降はそういった問題点を改善し、真

に我が国の舞台芸術の発展に資するもの
 にしていかなければなりません。
 今回は、今年度のIPAFに携わっ
 ていただいた方々から文章を寄せていた
 だき、あわせて、文化庁における音楽振
 興施策と実績を紹介させていただきまし
 た。今後の成功によって、我が国の舞台
 芸術がさらなる発展をとげることを期待
 いたします。（MK）

お詫びと訂正
 本誌平成一四年一〇
 月号の表紙及び目次に
 おいて野村万太郎氏
 のお名前に誤りがありま
 した。
 一人はもとより読
 者の皆様、関係諸氏に
 お詫び申し上げますと
 ともに訂正させていた
 だきます。

文化庁では、ホームページで、文
 化庁に関する情報を幅広く提供し
 ています。ご意見、文化庁月報の
 感想などを、ホームページのご意
 見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
<http://www.bunka.go.jp>

文化庁月報 11月号（通巻410）

平成14年11月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-18

電話 編集 03 (3571) 2126

販売 03 (5349) 6666

URL : <http://www.gyousei.co.jp>

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 [本体514円] 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

（株）ぎょうせい営業部広告課

電話03 (5349) 6657（ダイヤルイン）

©2002 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙再生紙を使用しております。